

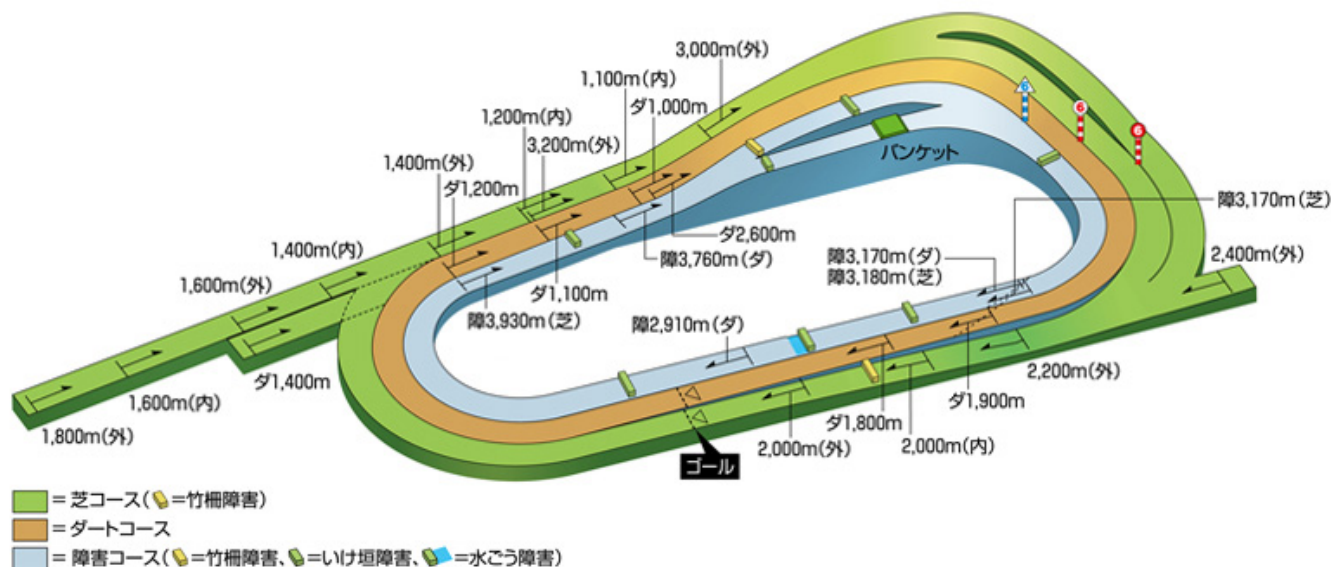


「京都競馬場徹底攻略ガイド」

presented by KAZ@競馬はビジネスである



～京都競馬場の特徴～

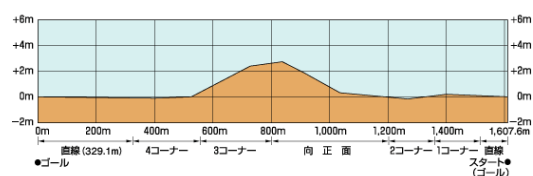
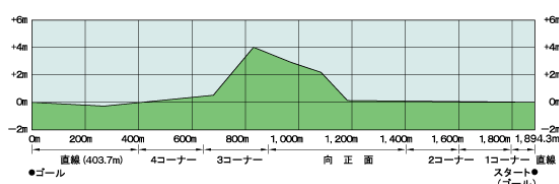
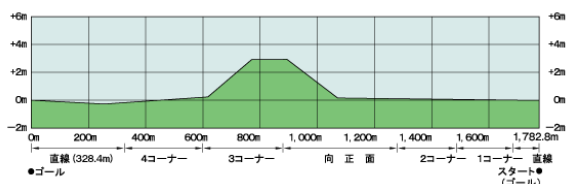


4年間の改修期間を経て2023年春にリニューアルオープン。3コーナー地点が小高い丘のようなレイアウトになっていて、3コーナーで坂を登って4コーナーで一気に下るといふかなり特徴的なコース形態はリニューアル後も同じ。他の競馬場ではなかなかないコース形態なので馬自身にコース適性やコース経験があるかどうか、騎手にもコース適性やコース経験があるかどうか重要。

直線が平坦で一見すると阪神コースよりも前残りが決まりやすそうだが、4コーナーが下り坂で差し馬が勢いをつけやすく、直線入り口で馬群がバラけることもあって阪神コースよりも差しが決まりやすい競馬場だと言えます。前が止まらない中で他馬より速い脚を使える馬が有利。

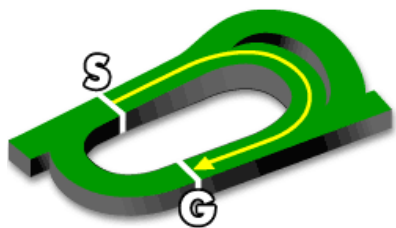
路盤がかなり硬い阪神競馬場に比べると、京都は路盤が柔らかくて馬場も悪化しやすい印象。雨の影響を受けたり開催後半になるとヨーロッパな時計のかかる馬場になることが多いです。そんな馬場が多かったからか、2023年の京都芝はロベルトやキングマンボの活躍が目立っていた。

4コーナーの下り坂で勢いをつけられて、なおかつ直線部分が平坦ということで、ダート戦は他の競馬場よりも上がりが速くなりやすい点は注意が必要。スタミナだけで粘り込みたいタイプの馬はスピードタイプや末脚キレルタイプに屈指しやすい舞台です。



京都芝1200m

基本的には内枠先行勢が有利、開催後半や荒れ馬場になると差し馬が台頭



向正面の半ばがスタート地点。最初のコーナーまでの距離は320mで、3コーナー地点が丘になっていて上り坂が続くため他場の1200mほど前傾にはなりにくい。3コーナーの坂を上り切るとそこからはずっと平坦。直線も短いため逃げ・先行馬が有利となっている。

枠番	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1枠	3- 3- 4-20/30	10.0%	20.0%	33.3%	57	101
2枠	2- 0- 6-22/30	6.7%	6.7%	26.7%	28	89
3枠	3- 2- 2-23/30	10.0%	16.7%	23.3%	78	66
4枠	2- 1- 1-29/33	6.1%	9.1%	12.1%	33	28
5枠	0- 4- 2-28/34	0.0%	11.8%	17.6%	0	46
6枠	2- 2- 1-30/35	5.7%	11.4%	14.3%	56	50
7枠	5- 4- 1-35/45	11.1%	20.0%	22.2%	86	80
8枠	1- 2- 1-41/45	2.2%	6.7%	8.9%	16	24

※京都芝1200mの枠順別成績(2023年4月~)

こうして見てもやはり内枠の方が優秀な成績。7枠の成績も良いですが、そのほとんどが先手を奪う競馬ができた馬。馬場が渋った時には外枠の差し馬も台頭していました。

基本的にはスプリント戦らしく内枠先行勢が有利。ただ、直線が平坦ではあるが、阪神芝1200mに比べればそれなりに差しも決まっている。4コーナーの下り坂で勢いをつけやすく、直線入り口でバラけることも多いのでスムーズに捌ければ差しも決まる。

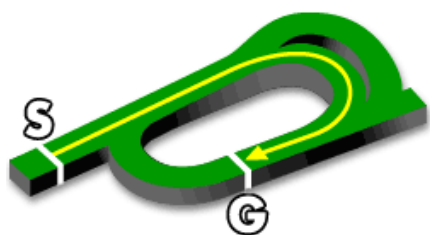
どうもコース改修後以降、全体的に京都競馬場は差しが決まりやすくなっている感じで、開催後半のCコースやDコース開催、また雨の影響で馬場が渋った際は差し馬が有利になってくる。

<まとめ>

- 基本的にはスプリント戦らしく内枠先行馬が有利
- 開催後半や雨の影響を受けると差し馬有利になることも

京都芝1400m(内回り)

当然先行馬が有利な条件だが2023年は逃げ馬の勝利なし、意外に差し決まる



2コーナーの引き込み線部分からスタート。最初のコーナーまで距離があるため、京都芝1200mと変わらないぐらいで前半ペースは流れる。3コーナーの坂を上り切るとそこからはずっと平坦。直線も短いため逃げ・先行馬が有利なのは当然だが、2023年はリニューアル以降、逃げ切り勝ちが一度もなかった。能力上位で上手く脚を溜めることができた差し馬が、最後に逃げ馬を交わして勝利というレースが多かった。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	0- 4- 1- 7/ 12	0.0%	33.3%	41.7%	0	221
平地・先行	4- 3- 5- 29/ 41	9.8%	17.1%	29.3%	50	59
平地・中団	7- 4- 5- 66/ 82	8.5%	13.4%	19.5%	56	59
平地・後方	1- 1- 1- 49/ 52	1.9%	3.8%	5.8%	4	18
平地・マク	0- 0- 0- 0/ 0					

※京都芝1400m内回りの脚質別成績(2023年4月~)

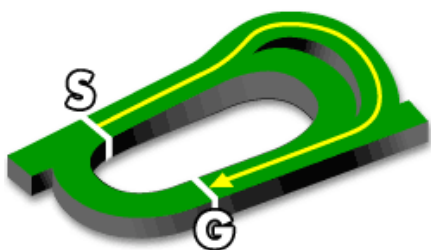
差し馬だけで決まる決着はなかなか考えられないが、前残り狙いでも1頭ぐらいは差し馬が突っ込んでくるイメージで予想した方がいいかも。

<まとめ>

□ 基本的には内枠先行馬が有利も逃げ馬の勝利はゼロ、割と差しは決まるレース

京都芝1400m(外回り)

平場では割と差しが決まる、重賞は今のところイン先行だが今後どうなるか



2コーナー地点からスタート。内回りコースより最初のコーナーまでの距離は短いですが、こちらは上級条件での開催となるため序盤から割とペースは流れる。ある程度ペースが流れた上で、外回りコースで直線も長い舞台。こちらのイメージ以上にズバツと差しが決まっている感じです。

脚質上り	着別度数				勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	2-	2-	2-	13/ 19	10.5%	21.1%	31.6%	40	146
平地・先行	9-	8-	5-	46/ 68	13.2%	25.0%	32.4%	210	92
平地・中団	5-	7-	8-	83/103	4.9%	11.7%	19.4%	25	66
平地・後方	3-	2-	4-	64/ 73	4.1%	6.8%	12.3%	20	75
平地・マク	0-	0-	0-	0/ 0					

※京都芝1400m外回りの脚質別成績(2023年4月～)

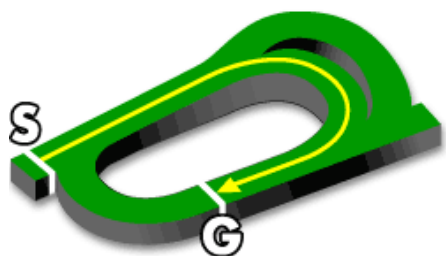
平場のレースは差しが決まっているが、これまでに行われた2回の重賞レースはスワンステークス、ファンタジーステークスどちらもインを通った馬で上位独占。まだサンプル数が少ないので、今後上級戦でどういう傾向になっていくかは難しいところです。

<まとめ>

□ 平場は割と差しが決まるが、重賞ではインを通った馬で上位独占となっている

京都芝1600m(内回り)

ペースが流れるためイメージ以上に差しが決まる舞台



2コーナーの引き込み線部分からスタート。最初のコーナーまでかなり距離があるため、高速馬場だと序盤から先行争いが激しくなってペースが速くなる。4コーナーから下り坂で直線も平坦だが、前半部分でペースが流れるために最後は差しもズバツと決まる。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	2- 3- 2- 16/ 23	8.7%	21.7%	30.4%	140	83
平地・先行	12- 12- 9- 57/ 90	13.3%	26.7%	36.7%	99	59
平地・中団	8- 7- 8- 79/102	7.8%	14.7%	22.5%	66	52
平地・後方	0- 1- 4- 88/ 93	0.0%	1.1%	5.4%	0	73
平地・マク	1- 0- 0- 0/ 1	100.0%	100.0%	100.0%	1300	260

※京都芝1600m内回りの脚質別成績(2023年4月～)

こうして脚質別の成績を見ても逃げ、先行、中団がほぼ互角。こういう舞台設定だと普通なら圧倒的に逃げ先行有利になるはずだが、このコースはイメージ以上に差しが決まっている。リニューアル後の京都芝が差しが決まりやすくなっているというのもあるが、騎手意識が前がかりになりやすいコースということもあるだろう。実際に開催後半でタフな馬場になると騎手意識もそこまで前に行かずでスローの前残りが多くなっていました。

好走データを見てみると、西村淳也騎手が圧巻の成績。ほぼパーフェクトな戦績となっていますし、この舞台の乗り方を完全に心得ている感じか。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	西村淳也	4- 2- 5- 2/13	30.8%	46.2%	84.6%	146	206

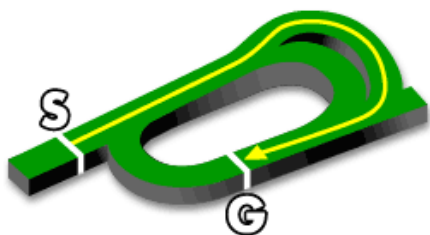
平坦コースながらペースが流れて差しが決まりやすいので、ロベルト系やキングマンボ系の馬が2023年はやたらに走っていました。

<まとめ>

- 平坦コースの内回り戦だがペース速くなって差しが決まる
- 西村淳也騎手が圧巻の成績を誇る
- 2023年はロベルト系やキングマンボ系の活躍が目立っていた

京都芝1600m(外回り)

前半ペースは落ち着いての直線決め手勝負、とにかく速い上がりを使える馬が有利



2コーナーの引き込み線部分からスタート。最初のコーナーまで距離があるが、外回りコース使用中盤部分が登り坂になるのでそこまでペースは速くならない。内回りコースと比べても前半ペースは落ち着きやすい舞台です。

前半ペースが落ち着く分、全馬が余力を持って直線に向かうわけですが、外回りコースで直線も長いいため単純な前残りレースばかりではない感じ。ペースや馬場次第で外からの差しも十分に決まっています。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	4- 0- 0- 11/ 15	26.7%	26.7%	26.7%	210	63
平地・先行	7- 4- 3- 39/ 53	13.2%	20.8%	26.4%	111	101
平地・中団	2- 10- 9- 45/ 66	3.0%	18.2%	31.8%	9	70
平地・後方	2- 1- 3- 52/ 58	3.4%	5.2%	10.3%	34	53
平地・マク	0- 0- 0- 0/ 0					
3F 1位	5- 4- 4- 3/ 16	31.3%	56.3%	81.3%	342	250
3F 2位	3- 1- 4- 11/ 19	15.8%	21.1%	42.1%	68	96
3F 3位	1- 5- 1- 9/ 16	6.3%	37.5%	43.8%	20	85
3F ~5位	3- 5- 4- 19/ 31	9.7%	25.8%	38.7%	70	161
3F 6位~	3- 0- 2-105/110	2.7%	2.7%	4.5%	21	16

※京都芝1600m 外回りの脚質&上がり順位別成績(2023年4月~)

どんな脚質でも満遍なく来れている感じ。とにかく上がり1位を繰り出す馬の成績が良さそうで、やはり京都コースらしく決め手が問われる舞台です。

<まとめ>

- 前半ペースが落ち着いて直線での決め手勝負になりやすい
- 脚質はどれも互角だが速い上がりを使える馬が強い

京都芝1800m

前半ペースは落ち着いての直線決め手勝負、とにかく速い上がりを使える馬が有利



2コーナーの引き込み線部分からスタート。最初のコーナーまで距離があるが、外回りコース使用で中盤部分が登り坂になるのでそこまでペースは速くならない。外回りの京都芝1600mとほぼ同じコースレイアウトですし、大体のレース質や求められる適性は同じような感じです。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	5- 3- 6- 20/ 34	14.7%	23.5%	41.2%	111	170
平地・先行	16- 13- 10- 84/123	13.0%	23.6%	31.7%	57	55
平地・中団	10- 15- 11- 84/120	8.3%	20.8%	30.0%	37	212
平地・後方	3- 3- 7- 92/105	2.9%	5.7%	12.4%	100	34
平地・マクリ	0- 0- 0- 1/ 1	0.0%	0.0%	0.0%	0	0
3F 1位	13- 13- 4- 8/ 38	34.2%	68.4%	78.9%	353	167
3F 2位	10- 9- 8- 12/ 39	25.6%	48.7%	69.2%	149	141
3F 3位	6- 7- 9- 11/ 33	18.2%	39.4%	66.7%	87	657
3F ~5位	4- 4- 5- 55/ 68	5.9%	11.8%	19.1%	47	40
3F 6位~	1- 1- 8-195/205	0.5%	1.0%	4.9%	2	26

※京都芝1800mの脚質&上がり順位別成績(2023年4月~)

どんな脚質でも満遍なく来ている感じ。とにかく上がり1位を繰り出す馬の成績が良さそうで、やはり京都コースらしく決め手が問われる舞台です。

とにかく川田騎手の成績が異常に優秀で、これまでに馬券圏外になったのは一度だけ。この舞台ではほぼ逆らえないと見ていい。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	川田将雅	5- 2- 2- 1/10	50.0%	70.0%	90.0%	145	115

<まとめ>

- 前半ペースが落ち着いて直線での決め手勝負になりやすい
- 脚質はどれも互角だが速い上がりを使える馬が強い
- 川田騎手が圧倒的な成績

京都芝2000m

前半スローから立ち回りと瞬発力が問われる



スタートして間もなくゴール板を過ぎ、1コーナーまでの距離はAコース使用で約300m。秋華賞が激流ハイペースになりやすいのでそのイメージが先行しがちだが、下級条件では前半ペースはそこまで速くならない。3コーナー地点も登り坂になっているので中盤もペースが緩みがちで、4コーナーの下り坂部分からペースが速くなって残り4ハロンの瞬発戦になりやすい。コーナー4回の舞台で立ち回りセンスが問われる条件だが、それでも上がり最速の馬の複勝率は7割を超えますし、京都コースらしく決め手は問われる舞台だ。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	4- 4- 6- 20/ 34	11.8%	23.5%	41.2%	220	183
平地・先行	19- 17- 10- 71/117	16.2%	30.8%	39.3%	71	75
平地・中団	6- 8- 12- 91/117	5.1%	12.0%	22.2%	18	77
平地・後方	4- 4- 4- 90/102	3.9%	7.8%	11.8%	26	44
平地・マク	1- 1- 2- 7/ 11	9.1%	18.2%	36.4%	140	381
3F 1位	16- 9- 4- 12/ 41	39.0%	61.0%	70.7%	170	190
3F 2位	8- 9- 7- 16/ 40	20.0%	42.5%	60.0%	207	222
3F 3位	4- 5- 12- 11/ 32	12.5%	28.1%	65.6%	62	154
3F ~5位	3- 8- 5- 49/ 65	4.6%	16.9%	24.6%	17	70
3F 6位~	3- 3- 6-189/201	1.5%	3.0%	6.0%	19	32

※京都芝2000mの脚質&上がり順位別成績(2023年4月~)

根幹距離の王道条件ということで、川田騎手や友道厩舎の成績が優秀。リニューアル後の京都芝はキングマンボの活躍が目立っており、この条件もドゥラメンテやレイデオロが素晴らしい成績。

順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
2	レイデオロ	3- 0- 2- 6/11	27.3%	27.3%	45.5%	660	223
3	ドゥラメンテ	2- 3- 4-12/21	9.5%	23.8%	42.9%	19	167

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	川田将雅	8- 3- 2- 1/14	57.1%	78.6%	92.9%	147	150

順位	調教師	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	(栗)友道康夫	4- 1- 4- 3/12	33.3%	41.7%	75.0%	100	128

<まとめ>

- 立ち回りセンスとともに決め手が問われる舞台
- 川田騎手、友道厩舎、レイデオロ産駒、ドゥラメンテ産駒が優秀な成績

京都芝2200m

非根幹距離の2200m条件の中では決め手が問われる舞台



非根幹距離の芝2200m条件だが、中山競馬場はヘンテコリンなコースレイアウトで阪神競馬場は内回りコースを使用。他の競馬場の芝2200mに比べれば京都芝2200mは外回りコース使用でしっかりと決め手が問われるのが特徴。

とは言っても根幹距離ではない2200mということで王道条件からは少し適性がズれている感じ。非根幹距離でやたらに走るキズナ産駒の活躍が目覚ましいコースです。

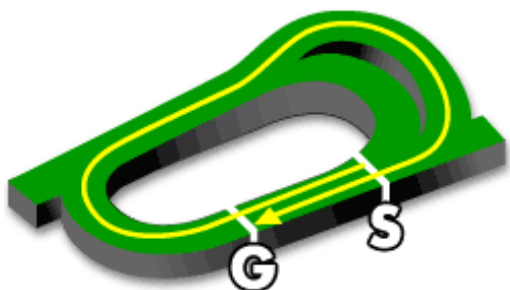
順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	キズナ	2- 2- 1- 4/ 9	22.2%	44.4%	55.6%	70	91

<まとめ>

- 他場の2200m条件に比べれば決め手が問われる
- 非根幹距離巧者のキズナ産駒の活躍が目立つ

京都芝2400m

前半スローからの4ハロン瞬発戦、とにかく速い上がりが使える馬が有利



スタートして1コーナーまでの距離は A コース使用で約400m。長距離戦でなおかつ直線も長いので前半ペースはほぼ間違いなくスローペースになる舞台で、3コーナー地点も登り坂になっているので中盤もペースが緩みがち。そこから4コーナーの下り坂地点で馬群が詰まって一気にペースアップとなり、ラスト4ハロンの瞬発戦になるのが特徴。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	1- 2- 0- 7/10	10.0%	30.0%	30.0%	93	63
平地・先行	6- 4- 5-14/29	20.7%	34.5%	51.7%	136	85
平地・中団	1- 2- 3-22/28	3.6%	10.7%	21.4%	6	40
平地・後方	1- 0- 1-26/28	3.6%	3.6%	7.1%	9	12
平地・マクリ	0- 1- 0- 3/ 4	0.0%	25.0%	25.0%	0	32
3F 1位	5- 1- 2- 2/10	50.0%	60.0%	80.0%	214	129
3F 2位	2- 4- 2- 5/13	15.4%	46.2%	61.5%	90	94
3F 3位	0- 2- 2- 2/ 6	0.0%	33.3%	66.7%	0	141
3F ~5位	1- 2- 2-15/20	5.0%	15.0%	25.0%	63	44
3F 6位~	1- 0- 1-47/49	2.0%	2.0%	4.1%	15	9

※京都芝2400mの脚質&上がり順位別成績(2023年4月~)

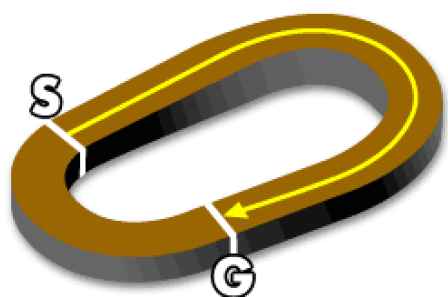
他場の芝2400mと同じく最速上がりを出せる馬が圧倒的に有利な舞台。ラスト4ハロンを速く走れる決め手上位の馬が走りやすいコースです。

<まとめ>

□ ラスト4ハロンを速く走れる決め手上位の馬が有利

京都ダート1200m

直線平坦で先行争いが激しくなっても前有利



スタートしてすぐに3コーナーの登り坂になるので、見た目は前半ペースがそこまで速くはならないコース。ただ、先行争いはかなり激しくなることが多い舞台です。

先行争いが激しくなったとしても、4コーナーからは下り坂で直線も平坦。基本的に前に行く馬が圧倒的に有利な舞台だと思いますし、実際にコースデータを見ても坂のある阪神ダート1200mより前残り傾向。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	13- 2- 4- 14/ 33	39.4%	45.5%	57.6%	236	143
平地・先行	16- 19- 9- 68/112	14.3%	31.3%	39.3%	84	163
平地・中団	4- 12- 15-154/185	2.2%	8.6%	16.8%	28	77
平地・後方	0- 0- 5-148/153	0.0%	0.0%	3.3%	0	13
平地・マクリ	0- 0- 0- 0/ 0					

※京都ダート1200mの脚質別成績(2023年4月～)

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	9- 2- 2- 4/ 17	52.9%	64.7%	76.5%	321	168
平地・先行	5- 9- 4- 40/ 58	8.6%	24.1%	31.0%	29	121
平地・中団	3- 6- 6- 82/ 97	3.1%	9.3%	15.5%	15	61
平地・後方	0- 0- 5- 79/ 84	0.0%	0.0%	6.0%	0	25
平地・マクリ	0- 0- 0- 0/ 0					

※京都ダート1200mの脚質別成績 1勝クラス以上(2023年4月～)

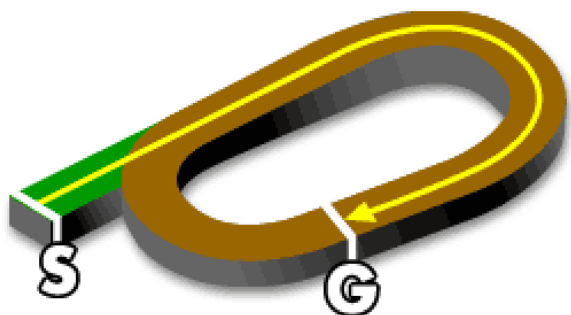
後ろから行く馬はなかなか厳しい舞台。新馬や未勝利よりも1勝クラス以上の上級戦の方が前残り傾向になっているのは興味深いところ。

<まとめ>

□ ラスト4ハロンを速く走れる決め手上位の馬が有利

京都ダート 1400m

阪神ダート1400mほどは外枠有利でもスタミナ条件でもない



スタートしてしばらく芝を走るのでスピードに乗りやすく、最初のコーナーまで距離が長いのでかなりの割合で速いペースになる条件。ここまでは阪神ダート1400mと同じだが、あちらは直線に急坂があるので極端にスタミナが問われて外枠有利なのに対して、京都ダート1400mはそこまで顕著な傾向は出ていない。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	8- 8- 6- 20/42	19.0%	38.1%	52.4%	224	134
平地・先行	20- 22- 19- 91/152	13.2%	27.6%	40.1%	164	124
平地・中団	11- 10- 12-194/227	4.8%	9.3%	14.5%	39	39
平地・後方	3- 2- 5-179/189	1.6%	2.6%	5.3%	5	19
平地・マク	0- 0- 0- 0/0					

※京都ダート1400mの脚質別成績(2023年4月~)

好走データだけ見ると脚質傾向は京都ダート1200mとあまり変わりませんし、ハイペースでも直線平坦なので前の馬は粘り込める舞台です。もちろんオープンなどの上級戦になるほど差しが決まりやすく外枠も有利に。

前に行ける馬が有利なので坂井騎手や松山騎手のような先行意識の強いジョッキーだったり、スピードタイプのアジアエクスプレス産駒の成績が良いコースです。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	坂井瑠星	6- 3- 3-13/25	24.0%	36.0%	48.0%	170	116
2	松山弘平	4- 5- 2-10/21	19.0%	42.9%	52.4%	74	95

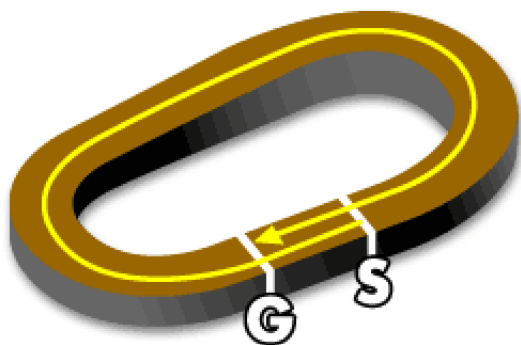
順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
4	アジアエクスプレス	2- 3- 2- 7/14	14.3%	35.7%	50.0%	52	157

<まとめ>

- 阪神ダート1400mほど外枠有利でもスタミナ戦になるわけでもない
- 坂井騎手、松山騎手、アジアエクスプレス産駒などが成績優秀

京都ダート1800m

本来ならばスピードコースだが改修以降はタフな馬場になることが多い



坂を2回越える阪神ダート1800mに比べれば平坦コースでスピードが問われる舞台。改修前の京都ダート1800mは他場よりも速い上がりが出ていましたし、実際にスピードが問われる舞台でした。ただ、どうも改修してから路盤を変えた影響か、以前のようなスピードが問われる舞台にはなっていない。パサパサの馬場でもかなりタフさが問われますし、雨が降って普通ならばスピードレースになると思うような時でも時計がかかるタフ馬場になっています。ちょっとまだ改修して時間が経っていないので傾向が変わっていくことも考えておきたい。

馬体重	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
～399kg	0- 0- 0- 3/ 3	0.0%	0.0%	0.0%	0	0
400～419kg	0- 0- 0- 7/ 7	0.0%	0.0%	0.0%	0	0
420～439kg	1- 2- 1- 43/ 47	2.1%	6.4%	8.5%	202	38
440～459kg	7- 11- 7- 96/121	5.8%	14.9%	20.7%	30	55
460～479kg	12- 20- 18-166/216	5.6%	14.8%	23.1%	37	70
480～499kg	26- 24- 21-191/262	9.9%	19.1%	27.1%	94	93
500～519kg	13- 12- 14-134/173	7.5%	14.5%	22.5%	53	59
520～539kg	9- 3- 6- 59/ 77	11.7%	15.6%	23.4%	57	80
540～	4- 0- 5- 31/ 40	10.0%	10.0%	22.5%	19	89

※京都ダート1800mの体重別成績(2023年4月～)

そんなタフな馬場だからか、体重別の成績を見ても軽い馬体重の馬は結果が出ていません。

好走データを見ると、坂井騎手や松山騎手、シニスターミニスター産駒やヘニーヒューズ産駒が優秀な成績。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	坂井瑠星	8- 3- 5-22/38	21.1%	28.9%	42.1%	92	90
2	松山弘平	6- 4- 6-15/31	19.4%	32.3%	51.6%	67	86

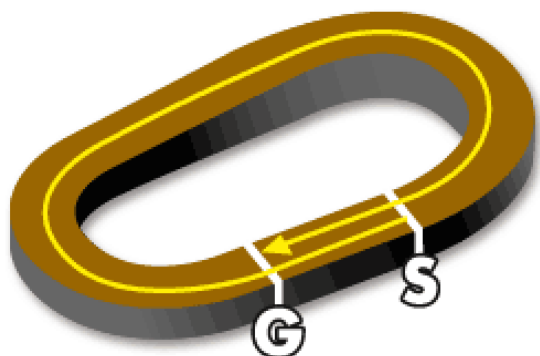
順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	シニスターミニスター	7- 8- 2-23/40	17.5%	37.5%	42.5%	102	180
2	ヘニーヒューズ	4- 4- 5- 7/20	20.0%	40.0%	65.0%	104	131

<まとめ>

- 以前はスピードコースだったが改修後はタフさが問われて体重軽い馬は不利
- 松山騎手や坂井騎手、シニスターミニスター産駒やヘニーヒューズ産駒の成績優秀

京都ダート 1900m

京都ダート1900mよりもスタミナ条件で差しが決まりやすい



京都ダート1800mよりも100m距離が伸びるだけですが、その分スタミナがはっきり問われるようになって差しが決まりやすい条件。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	1- 3- 0- 13/ 17	5.9%	23.5%	23.5%	72	72
平地・先行	9- 6- 5- 34/ 54	16.7%	27.8%	37.0%	45	100
平地・中団	3- 5- 9- 72/ 89	3.4%	9.0%	19.1%	26	57
平地・後方	2- 3- 3- 68/ 76	2.6%	6.6%	10.5%	50	44
平地・マクリ	2- 0- 0- 3/ 5	40.0%	40.0%	40.0%	326	78

※京都ダート1900mの脚質別成績(2023年4月～)

ダート中距離戦にしては逃げ馬の成績がかなり悪いですし、後方脚質の馬の複勝率が10%もあるのを見ても差しは決まりやすい舞台でしょう。

<まとめ>

□ 100m伸びることで京都ダート1800mよりもスタミナが問われて差しが決まる